

雲南省への旅

この夏、私は思い掛けない体験をした。

バスを降りると、大きな湖を抱く草原が遙かに広がる。そこはナシ族がお祭りに競馬を行う場所らしい。今は観光地にもなっているという。麗江馬と呼ばれる小型の馬が気ままにあちこちたむろしている。可愛らしく親しみが湧く。「触ってみたい」。馬に近づくと急に逃げ出した。気が付くと、何時の間にか私は、馬子さんに押し上げられ、その素朴な茶色の馬の背に乗っていた。ところが鐙あひみに足が届かない(ショック)。鐙の上にあるゴムの輪っか(子供用?)に足を入れていた(トホホ)。それでも気分は上々。暫くの間馬子さんに手綱を引いてもらい、ゆっくりと、湿った土や草の上を歩いていた。

暫くすると、馬子さんが何やら私に話しかけている。言葉が聞き取れない。少しくらいかじった中国語では何の役にたたない。もどかしさ、なさけなさで、周りを眺めると、白馬に乗った横澤先生の颯爽と走るお姿が目に入る。スラッとした足、ピンと伸びた背筋、その美しい姿にしばし見とれてしまった。ふと我にかえると、馬子さんは私に「走りたいか?」と尋ねているらしい。フロックン・ハンイ(中国語)で「走りたい」と言ったが通じない。私は横澤先生の方を指差した。すると「わかった」という顔で一人の乗手と一頭の馬を連れてきてくれた。私の馬を引つ張って走ってくれるという。馬に乗るのも初めてなのに先生に刺激され走ろうなんて!無謀だった。案の定すごい上下運動。振り落とされないよう、必死で鞍にしがみついていた。それなのに「この爽快感」は何だろう。嬉しくて叫びたい気分だった。

その後、一人で手綱を持って自由に歩かせてくれた。とても気持ちよく歩いていたら突然馬が放尿(ウヒャー)。お客の私にはお構いなし。草まで食べはじめた。

ここにはナシ族タイムでも言おうか、ゆったりとした時間が流れている。空気や風がまるで違う。チベットの空気も特別だったが、それよりも柔らかい。湿り気があり、粒の小さな霧のシャワーを全身に浴びているような感じだった。自然と胸の奥が開かれ、優しく風が通っていく。かつて体験したことのない思いだった。

「まだ降りなくてもいいのかな?」と思いつつ随分長い時間乗っていたように思う。それなのに料金は同じ金額。申し訳ない。思わぬ体験をさせてもらったあげくのサービスに、思わず馬子さんに握手をしてみました。馬には「握手」したいくらい。おかげさまであの広大な自然の中で正に生命を養う(養生)一時を過ごすことが出来た。

(私の長時間の乗馬で、予定の行程が変更されたにも関わらず、大目に見て下さった学会の皆様のお寛大さに改めて深く感謝を申し上げます。)

横倉勝子